

平成 29 年 3 月 30 日

## 金城大学短期大学部 開学 40 周年記念事業 「地域連携イノベーション・フォーラム」実施報告

開学 40 周年記念事業実行委員会

去る 3 月 3 日に開催しました「地域連携イノベーション・フォーラム」につきまして、以下のようにご報告いたします。

### 1. 概 略：

- 日 時： 平成 29 年 3 月 3 日（金） 13:30～15:30  
会 場： 金城大学笠間キャンパス 社会福祉学部棟 1 階 大講義室及びラウンジ  
参加者数： 行政・産業界・教育機関・地域住民等（学園教職員含む）合計 151 人  
次 第： 13:30～13:40 学長開会挨拶、山田市長挨拶  
13:40～15:00 パネルディスカッション  
15:05～15:30 ラウンジにおける「参加者交流会」

### 2. パネルディスカッション：

☆テーマ：「高等教育機関と地域連携」

#### ★パネリスト

- \* 北陸先端科学技術大学院大学 総括理事・副学長 寺野 稔 氏
- \* 金沢工業大学 副学長 鹿田正昭 氏
- \* 金城大学 看護学部 学部長 永山くに子 氏
- \* 金城大学短期大学部 副学長 岡野絹枝

#### ★モデレーター

- \* 金城大学短期大学部 学長補佐 加藤 博

### 3. 参加者からのアンケート集計等：

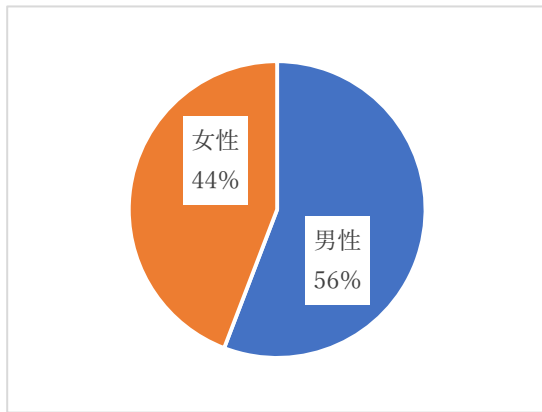
- (1)調査方法：フォーラム終了後に回収
- (2)回収状況：回答数 86 人及びラウンジでのヒアリング
- (3)回答概要：

フォーラム参加者に対し、パネルディスカッションの評価と共に、地域連携活動における意見収集を行った。パネルディスカッションについては、89%が参考になったと回答している。高等教育機関がさまざまな地域連携取組をしていることを初めて知った。金沢工業大学・金城大学・本学共に学生の教育だけでなく地域貢献もしている、遠い存在の北陸先端科学技術大学院大学が地域連携活動をしていることを知り少し身近に感じる事ができた、などなどの意見が寄せられ、概ね成功したと考えられる。地域活動を推進するために必要なこととしては、大学・行政・企業との連携、資金や人材の支援、継続する力、教育機関が積極的に地域活動に参加することなどが挙げられた。また、高等教育機関に求められることとしては、行政・産業界・地域住民との連携を基に、連携の場や情報の提供、学生の育成に加え、金沢・能登地区との連携も含め石川全域の連携が必要との意見も寄せられた。

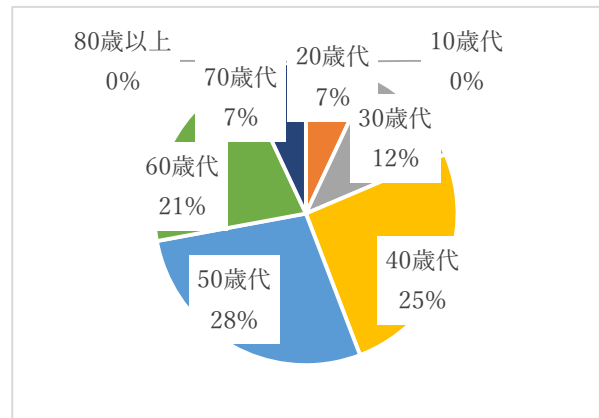
(4)詳細内容：Q1-Q8の回答を2頁から5頁に記載

<「地域連携イノベーション・フォーラム」アンケート集計結果> 回答数：86件

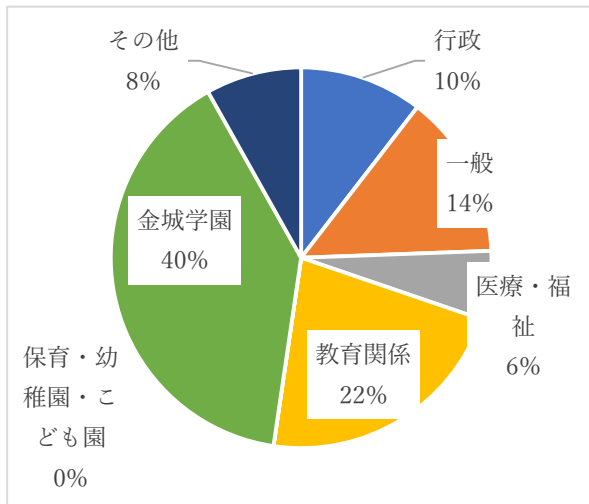
〔Q1〕 あなたの性別をお選びください。



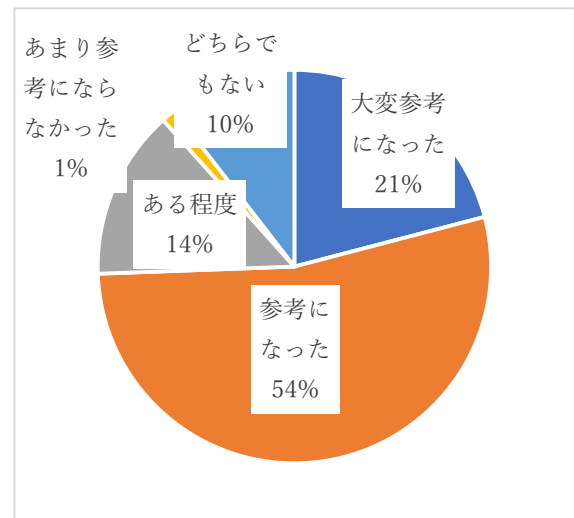
〔Q2〕 あなたの年代をお選びください。



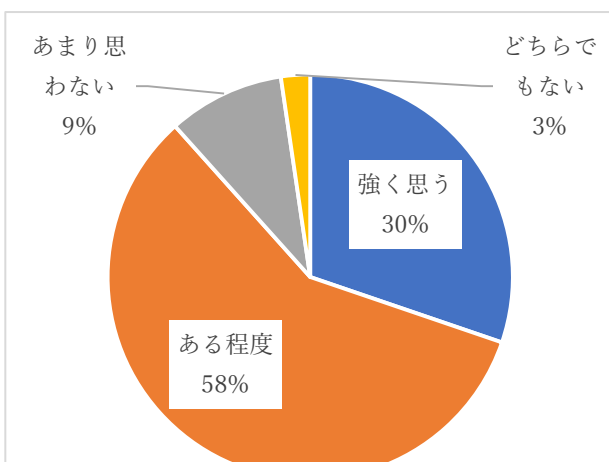
〔Q3〕 あなたの所属をお選びください。



〔Q4〕 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか。



〔Q5〕 地域連携活動は活性化してきましたと思いますか。



〔Q6〕 Q5 に対しての主な理由をお書きください。

<強く思う>

- 全く違う分野で最先端の大学の取組を聞けてとても勉強になった。
- 産学官民の連携活動のきっかけを“学”から積極的に行っていることが素晴らしいと思った。弊社ともぜひ連携し、地域活性化を実現していけたらと感じた。各大学の特色が出ていて面白かった。企業、地域ともに活性化の必要性を感じる。
- 新聞報道を通して感じるし、また実際、地域の中でも大学の取組は感じる。(3)
- 県内各地で、大学と連携した事業が実施されている。(2)
- 大学の意識が変わってきたと思う。
- 私自身も連携を求めている。
- 大学と協力するほかない。
- 連携なしで超高齢化社会の対応は難しい。産学官民一丸となり、活発化していく事が必要である。
- 大学の役割である。
- 大学の役割がここ数十年で変わってきている。さらにカリキュラムに地域連携を入れるなど、学生、教員への教育にも変化が見られるため、今後期待できると思う。
- 医療関係において、地域にとけ込む活動を聞くにあたり、もっと必要性を感じている。(オレンジプラン、地域包括システムなど)
- 教育機関が単独で行っても、その地域への貢献は望めない。地域の方々と共にその地域に根ざした役割を担う必要がある。
- 大学や学生さん達の協力を大変ありがたく思っている。
- 行政、民間、教育機関の壁は時代と共になくなっていく。
- 地域連携について話を聞く機会が増え、地域連携というキーワードが日常的になった。また、お声かけいただくことも増えた。ただし、内容は改善の余地があるが、必要ややりがいも感じている。
- 知の拠点であるか否かの検証の場と考える。

<ある程度思う>

- 地域連携活動は大学として継続ができない。
- 地域連携を点（それぞれのイベント）で捉えていた意識があった。それを線・面として大きなネットワーク（連携）として取り組むことで大きな社会のうねりになると気付けたから。
- 国の施策もあり、今まであまり見られなかった大学の外に向けての活動が、各大学で積極的に取り組まれていることが、新聞、テレビ等の報道からも知ることが多くなった。(3)
- 各大学の話を聞き、それぞれ頑張っている。各大学それぞれ課題はあるが、たくさんの取組を紹介いただき、貴重な意見を聞いた。(5)
- 連携は、重要なキーワードとなる。
- 大学の運営を考えると、「地域連携」の文字がもれなく入るようになったから。
- 実際に各大学の連携活動をよく目にするようになった。
- 一部の教員・学生、一部の自治体、企業の継続してきたプロジェクトの成果で、本当の意味で地域に根付き『とりあえずあの大学に相談してみよう』『一緒にやろう！』と気軽に言ってもらえるには、当事者意識や組織体制などの課題を多く感じる。
- 公的な補助金に基づいた活動だけではなく、各高等教育機関が自立して活動するプロジェクトがある程度定着し始めた。
- 時代からの必要性
- 地元のイベントは大切にしていきたい。
- すでに地域連携をしている高等教育機関があるから。
- 自身でも先端大と共同研究を行っている。イベント等で産学連携の成果等を目にすることも増えた。
- 大学、福祉、企業との連携。大学と大学の異分野の学生交流など。

- 目に見える成果が出つつあるから。
- 地域の依頼が年々増えてきているように思う。
- それぞれの地域で地域包括ケアシステムの構築を目指して、白山市在宅医療連携協議会の活動等にて広まってきていると思う。

#### <あまり思わない>

- 予算の切れ目が活動の切れ目になっている。継続性が重要である。
- 一市民にとって、まだ見える連携になっていないと思う。
- 金城大学の一般講座については感謝している。
- さまざまな取組を発信してほしい。(あまり目立っていない。)
- まだまだ発展途上
- 地域企業の活性化と成長が必要。
- 具体的な活動内容をよく知らない。

#### <どちらでもない>

- 参加要請が増えたことは活発化したが、学生・教職員の変化をあまり感じない。
- 自身の年齢的な面や職種的なこともあり、地域連携について知る機会があまりなかった。

#### 〔Q7〕地域連携活動を推進するために、どのようなことが必要だと思いますか。

- 行政の協力、他大学との連携、産学官民の連携が重要 (4)
- 企業サイドの要望を取り入れることが必要。官の役割がポイントとなる。(2)
- 大学の積極性と行政・地域の支援、理解
- 大学(学生)の知識・パワーと地域のニーズ(課題)のマッチング
- 地域活動への参加、地域ニーズの把握、財源の保障、補助金での事業運営、外部資金などの獲得などで自立できるような取組 (3)
- 交流の場。自分のフィールドで何をすべきか具体的に考える場、顔の見える関係を作ること、よりコミュニケーションを取ること。(8)
- 産学官民の連携を効果的に進めるために、お互いのことを知る機会が重要と考える。また、そのようなプロジェクトをしていることを地域の皆様へアピールすること、参画していただくこと、などが地域に根付いた取組になると思う。
- 地域連携専門員を大学に置くこと。
- 過疎問題や縮小社会など、大きな枠組の中で連携できる人・物・組織を選択し、向上するスパイラルを生み出すことだと思う。
- 高齢化が進行し、車に乗れない、新興住宅地も陸の孤島になりつつあるので、出前による活動がより必要だと思う。
- 白山市は広域なので、一つひとつが点のように活動していることを、線として繋いでいけばいいのだろうか…と思う。
- 地域包括支援センターの充実、ボランティア、民生委員、地域住民等の連携
- コンタクトの取り方を知りたい。
- 難しいと思う。
- とにかく継続し、チャレンジしていく。そのための時間を確保していくために、組織的に考え方・やり方を変えていく。
- 社会を知り、流れを知る。地域企業との連携がとても必要
- すべての人に居場所と出番を作ること。
- 各教育機関がどのように自分の地域で活動しているのかを知っていただく。逆に地域で行われる活動を知ると共に、教育機関が入ることで発展できる活動はないかななどの情報共有が必要である。
- 問題が起きたいろいろな事柄を学校全体(家庭も含む)で対処。分析と今後また起こさないための対策が必要である。
- 明確な目的、人材、資金、幅広い支援
- 高等教育機関は一步退いて、地域の人が主役(当事者)となる進め方が必要。地域のコンセンサスを得ることに大きなエネルギーを費やすことを省略してはだめ。高等教育機関が先走りしないように十

分に気を付けるべきと考える。

- 地域から使ってもらえる努力（売り込み）を続けていくこと。
- 地域をどのようにしたいかという意識（モチベーション）
- それぞれの役割分担の明確化と企業意識の変革。企業と高等教育機関が、それぞれに「地域貢献」がいられているが垣根がまだある。
- 地域（企業や行政など）と大学がよく知り合い、課題等を理解しあうこと。
- 老人が体操や福祉面で指導を受け、これからも続くことを願っている。お祭りや民俗の催しなどがあっても見られない等、交通の便なども考えていただきたい。
- 学内のシステム作り。広い視野でモノを捉える教員の力の育成。活動を支える資金・人材など。(3)
- 教員側の企業との接触努力。学外で企業、地域等が必要とする事項により触れて欲しい。
- 地域と大学とが繋がりやすくなるように、外へ向けての分かりやすい発信をしていくこと。
- ニーズと供給をマッチングしていくこと。地域に根ざして活動すること。
- 皆が自分だけの利益を求めないこと。
- トップの力強い発信（学内、学外向け）
- どのようなことでも継続していくことが必要だと思う。内容的には地域の特性や構成人員の必要なものを見極めることが必要だと思う。(2)
- 地域の方々の理解と計画管理をしっかりと行う。お金は必ずかかること。(3)
- 行政は地域におけるニーズの掘り起こしをし、高等教育機関の提供できるサービスとのマッチングが大切と思う。既存の硬直化した組織、団体への支援に関わらず、新しい発想で積極的に取り組むイノベーション団体の支援及び本気で取り組む人材の育成が大切と思う。また、事業は地味でも発展的・継続的でありたい。形式的な活動ではなくお互いにメリットがあることと主体者の意識は成功の大きなファクターと思う。
- 地域連携活動は、専門職種（大学・行政・企業など）だけのようで、個人（一般）とは遠い感じがする。一般の人が参加しやすいイベント、シンポジウムを今後多く企画してほしい。

#### 〔Q8〕地域連携活動を推進するために、高等教育機関に対してどのようなことを希望されますか。

- 活発で行動力のある学生の育成、参加。社会で活躍できる学生の育成など。(5)
- 学生達には授業の一環として企業を知ることが必要。現実と現状を知り、社会に出る準備が必要。
- 何ができるのかを明確にすべき。参画する学生への「単位還元（アメ）」と「必須化（ムチ）」と卒論への反映、卒業後のフィードバック
- 金沢工業大学で取り組んでいる事業をもっと聞かせて欲しい。
- 特に短期大学部については、学生が成果を得られるようにカリキュラムを組んでいただきたい。
- 学外のコンテストやイベントに参加、結果を残すことを視野に入れ、学生の価値を向上させていきたい。「活動する」から一歩進んで「効果を上げる」の実現を希望する。(2)
- 互いの特性、強みをさらけ出し、地域産業に働きかけを作り出す。(2)
- 石川県における大学所在地が金沢・加賀に集中しているため、能登に大学が少ない。
- 能登の場合、旧態の官民で取組むことが多いため、ぜひ能登方面に多くの地域連携・提案をお願いしたい。(多くの能登出身の学生が金沢の大学へ進学している。)
- 学生時代に地域に根ざす活動・プロジェクトを行い、その地域・業職に就職してほしい。(3)
- 卒業生を活用すべき。勤めている企業内からの提案、住んでいる地域との連絡が可能になると思う。
- とにかく大学を使っていただく。大学間連携をもっと推進する（ネットワーキング）。
- 今のような活動を続けて欲しい。
- 若い学生が高齢者と関わりを持てる授業を専門学部につまみならず必要学としてあれば有難い（高齢者との関わりの必須化）。
- 各地域が抱えている問題や地域が何を必要としているのか的確に把握することが、推進するために最も重要であると思う。
- 学長の強いリーダーシップ
- 高い教員の資質。リーダーシップのとれる人とメンバーシップをとれる人
- 学校と民間企業だけではなく、白山市なら白山市の住民が気軽に入れる学校にしてもらいたい。
- 大学のオープンスペース活用利用を強く望む。

- 教育を軸として、世代・分野・文化を超えた共創教育
- 連携できる内容のメニューを常にオープンにし、行政や各種団体一般の人に情報提供していく。(2)
- 地域・企業等にどのようなニーズがあるか、アンテナを高くしていくことが必要
- 高等教育機関と病院と企業と行政の連携情報交換は進んでいると思うが、一番遠く感じるのが在宅（患者、介護者）である。学生の中に在宅を見る機会は看護師教育だけである。一般の学生が在宅にボランティア等にて情報交換ができる機会を作って欲しい。
- 独居老人などに手を差しのべてくださるようお願い。

以上